

# 清新中学校だより 清風

令和2年11月2日  
第176号

## 見えないものを見る力

校長 江戸谷 智章

『上農は草を見ずして草を刈り 中農は草を見て草を刈り 下農は草を見ても草を刈らず』という言葉をご存じの方も多いと思います。農業に従事する人の中で、一流の人（上農）は、雑草の芽が出る前に、その根がつきにくくなるように農地の表面をけずるなどして最良の土づくりを行うといいます。一方、農業に十分な知識や技能のない人（下農）にいたっては、雑草が出て何もせず放置してしまうということから、この言葉には、先んじて策を打っておくことが大事という意味があるようです。

この言葉は農業に限ったことではなく、あらゆる生活場面でもいえる話で、常に一步先、先手を打つことによって物事が効率よくいくということを教えてくれているのだと思います。「あの時〇〇していれば・・・」、「どうして〇〇しておかなかったんだろう・・・」、「こうなることはわかっていたのに・・・」など、私など、ちょっと振り返ってみただけでも反省は尽きません。



この言葉を語るとき、「先見」という言葉がよく引き合いに出されます。「先見」とは読んで字のごとく、「先を見通す」という意味をもち、「先見性」や「先見の明」、「先見の目」など、日々の生活の中でもよく使われているのはご存じのとおりです。

しかしどうでしょう。私たちは、将来や未来を予見できるような特殊能力を持ち合わせているわけではありません。むしろ一寸先のことは誰にもわからないといっても過言ではありません。では、この矛盾とも思える「先見」を身につけるにはどうしたらいいのでしょうか。

「先見力」が身につけている人とそうでない人の差は「観察力（物事を注意深く見る力）」と「洞察力（目に見えるものを手掛かりにその奥底にある「目に見えないもの」を推測する力）」の差によるものが大きいといえます（注1）。目の前で生じていることが一見正しいと思えることでも、視点を変えてみると、必ずしも正しいとまでは言い切れないことが世の中にはたくさんあります。また、どういったことが原因でこの状況や問題が生まれているのか、今後どういった影響が考えられるのか等、常に「なぜ?」、「どうして?」を自分に問いかけ、現状を分析しながらこれから先に起こりうることを想定しようとするクセが、「先見力」を身につけ、人としての幅を拓けていくといえます。

少々難しい話になりましたが、実は私たちは幼少の頃に、目には見えないものであっても見ようとしないでならないことを、身近な大人から教わっていたように思います。例えば、夕食を終え茶碗に残ったご飯粒を見て、「この一粒のお米も、こうして食卓に並べられるまでには、田んぼの土作りから田植え、収穫・販売にいたるまで、見えないところで多くの人の手間や苦労があって食することができるのだから、たとえ一粒でも残さずに感謝しながら食べなさいよ」と、親に言われたという経験をお持ちの方もおいででしょう。



表面には現れてこないものを心の目で見られるようにするには、日常からの心配りや気遣いがないとではないと思います。自分のことしか考えられない状況の中で、他者の心の変容など到底気づけるはずもありません。また、人間は多くの人の見えない力によって支えられ、生かされているという単純な事実気づけないでいると、目先の損得ばかりに目がいき、当たり前前に感謝することすらできなくなってしまうのかも知れません。そう考えると、先見力とは、日常の思いやりや感謝の心ともつながっているようにも思えます。

昔読んだサン・テグジュペリの「星の王子さま」の中に、次のような一節があるのを思い出しました。『大切なものはね、目には見えないんだよ』。人のこころの中にある思いや気持ち・感情・感性にはじまり空気や命に至るまで、本当に大事なものであるのは目には見えないものなのかも知れません。

（注1）『観察力とは | 観察力の重要性と観察眼を鍛える全手順 | 図解解説』 著者 羽田康祐  
[https://www.missiondrivenbrand.jp/entry/thinking\\_findout](https://www.missiondrivenbrand.jp/entry/thinking_findout) から一部引用

# 「心のゆとり」

2学年担任 牧野 竜也

「出ばな面」。相手がこちらの面を打とうとして動き出す瞬間を狙う、剣道における技の一つです。非常に難しい技であり、多くの剣道家にとって憧れの技でもあります。

この技を決めるために必要なことは「心にゆとりをもつこと」だと私は考えています。自分から、がむしやりに攻めるだけでは相手は防御を固めてしまい、余計に打てなくなってしまいます。激しい攻防の中で、あえて相手に「面が打てそうだ。」と感じさせるような隙を見せる心のゆとりが必要なのです。



「出ばな面」に限らず、剣道の試合や稽古ではこのような駆け引きがずっと続きます。そのため相手との相性が重要です。不思議なことに、自分より格上の相手のはずが剣を交えてみると「やりやすい」と感じる場合があります。逆に剣道歴の浅い相手でも「やりにくい」と感じて、なかなか技を決めることができないこともあります。

私の場合、「やりにくい」と感じると、ついイライラしてしまい、後で反省するなんてこともよくあります。みなさんには、そのような経験はありませんか。スポーツをしている時だけでなく、日常生活でもあるかもしれませんね。

私の尊敬する選手が、こんなことを言っていました。「やりにくくて打てない。それは、相手が強いということ。心の中で自分の方が強いと思い込んでいるからイライラする。」



「なかなか打たせてくれない相手との稽古は勉強になる。誰が相手でも勉強させてもらう、感謝する。そして必ず最初の一本は出ばな面を狙う。」

やりにくい相手にイライラするどころか感謝をし、あえて難しい「出ばな面」を狙うというのです。「やはり強い選手は違うなあ。」と感ずると同時に、この選手のもつ心のゆとりに感動しました。

みなさんの周囲のストレスや壁。実は、みなさんを成長させてくれるものかもしれません。それらを全て突き放すだけではなく、心にゆとりをもって受け入れてみてください。私も人として剣道家として修行の最中です。一緒に成長しましょう。

## 11月の主な日程

※下記の日程につきましては、今後変更が予想されます。ご了承ください。

### 11月

2日(月) 諸活動なし	17日(火) 生徒会委員会
3日(火) 文化の日	19日(木) 諸活動なし
4日(水) 教育相談 PTA実行委員会	20日(金) 市制記念日
5日(木) 生徒会認証式 諸活動なし	23日(月) 勤労感謝の日
8日(日) 定期試験前諸活動なし	24日(火) 諸活動なし
9日(月) 諸活動なし	25日(水) 全校集会
10日(火) 諸活動なし	26日(木) 3年進路面談①
11日(水) 定期試験 諸活動なし	27日(金) 3年進路面談②
12日(木) 定期試験 諸活動なし	私たちの約束記念日
13日(金) 定期試験 諸活動なし	29日(日) 清新地区防災訓練
16日(月) 3年エイズ・性感染症予防講演会	30日(月) 3年進路面談③ 諸活動なし
諸活動なし	

